

1-1 建物概要				1-2 外観	
建物名称	上和田住宅(第1工区)	階数	地上8F	外観パース等	
建設地	愛知県岡崎市上和田町	構造	RC造		
用途地域	第一種住居地域	平均居住人員	160 人		
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年		
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価		
竣工年	2016年8月 予定	評価の実施日	2014年9月1日		
敷地面積	5,985.87 m ²	作成者	堀田幹博		
建築面積	604.23 m ²	確認日	2014年9月16日		
延床面積	3,782.25 m ²	確認者	濱田仁		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂ (温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 72%

③上記+②以外の 72%

④上記+ 72%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 4.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.7

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.0

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.6

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">4.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td style="text-align: center;">12.5 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	12.5 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	12.5 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">2.9</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="text-align: right; font-size: 2em;">1.0</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td><外装材に使用した地域性のある材料></td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></td> <td>なし</td> </tr> </table>	<外装材に使用した地域性のある材料>	なし	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし
<外装材に使用した地域性のある材料>	なし				
<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出
 ④地域材の活用
 Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									3.1
Q1 室内環境						0.40			4.1
1 音環境					-	-	3.0	1.00	3.0
1.1 騒音					-	-	3.0	0.50	
1 室内騒音レベル					-	-	3.0	0.50	
2 騒音騒音対策					-	-	3.0	0.50	
1.2 遮音					-	-	3.0	0.50	
1 開口部遮音性能					-	-	3.0	0.30	
2 外壁遮音性能					3.0	-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					3.0	-	3.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					3.0	-	3.0	0.20	
1.3 吸音					3.0	-	3.0	-	
2 温熱環境					-	-	3.0	1.00	3.0
2.1 室温制御					-	-	3.0	1.00	
1 室温					-	-	-	-	
2 負荷変動・追従制御性					-	-	-	-	
3 外皮性能					-	-	3.0	1.00	
4 ゾーン別制御性					-	-	-	-	
5 湿度・湿度制御					-	-	-	-	
6 温度制御					-	-	-	-	
7 換気・空調に対する配慮					-	-	-	-	
8 監視システム					-	-	-	-	
2.2 湿度制御					-	-	-	-	
2.3 空調方式					-	-	-	-	
3 光・視環境					3.0	0.50	4.0	1.00	3.9
3.1 昼光利用					3.0	0.67	4.0	1.00	
1 昼光率					-	-	5.0	0.50	
2 方位別開口					-	-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備					3.0	1.00	3.0	0.20	
3.2 グレア対策					-	-	-	-	
1 照明器具のグレア					-	-	-	-	
2 昼光制御					-	-	-	-	
3 視覚的対策					-	-	-	-	
3.3 照度					3.0	0.33	-	-	
3.4 照明制御					-	-	-	-	
4 空気環境					5.0	0.50	4.3	1.00	4.4
4.1 発生源対策					5.0	1.00	5.0	0.63	
1 化学汚染物質					5.0	1.00	5.0	1.00	
2 揮発性有機化合物					-	-	-	-	
3 放射性物質					-	-	-	-	
4 ヒートショック対策					-	-	-	-	
4.2 換気					-	-	3.3	0.38	
1 換気量					-	-	3.0	0.33	
2 自然換気性能					3.0	-	4.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮					-	-	3.0	0.33	
4 換気設備					-	-	-	-	
4.3 運用管理					-	-	-	-	
1 CO ₂ の監視					3.0	-	-	-	
2 喫煙の制御					3.0	-	-	-	
Q2 サービス性能					-	0.30	-	-	2.7
1 機能性					3.0	0.40	2.4	1.00	2.4
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	1.00	2.0	0.60	
1 広さ・収納性					3.0	-	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応					3.0	-	2.0	1.00	
3 バリアフリー計画					3.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性					-	-	3.0	0.40	
1 広さ感・景観					3.0	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース					3.0	-	-	-	
3 内装計画					-	-	3.0	0.50	
1.3 維持管理					-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計					-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保					-	-	-	-	
3 建築監業					-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性					3.2	0.31	-	-	3.2
2.1 耐震・免震					3.0	0.48	-	-	
1 耐震性					3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能					3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数					3.6	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数					5.0	0.25	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					3.0	0.25	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔					4.0	0.10	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					2.0	0.10	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔					-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.17	-	-	
					4.0	0.25	-	-	

重点項目スコアシート
上和田住宅(第1工区)

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-あいち(2011年度版)

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011v.1.3_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.1	0.10	
② 資源の有効活用				2.9
Q2-2	耐震性・信頼性	3.2	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 設備も含めて今日のライフスタイルに合わなくなりつつある建物の建て替えを機に、周辺環境の改善を行うとともに、障害者や高齢者に配慮したバリアフリー化を行う。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 大きな開口部を設け、十分な採光と換気を確保する。また化学物質を発生しない建材を用いることで室内環境への配慮を行う。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 共用部のバリアフリー化およびシルバー住宅の設置など障害者や高齢者に配慮した。また、住宅性能表示基準3-1劣化対策等級(構造躯体等)等級3を確保し、耐久性のある建物とした。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 住棟間に十分なスペースを設け、健康的な住環境を形成するよう配慮した。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 住宅性能表示基準5-1省エネルギー対策等級4を確保し、建物の熱負荷抑制を計った。また、太陽光発電設備を設けて、CO2排出削減に貢献する。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 雨水を利用した散水設備やリサイクル建材を積極的に使用する。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 自転車置場や駐車場の適切な量の確保。分別ができる十分なスペースのあるゴミ置き場の設置。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。